



草加八潮地域連携呼吸器研究会(**SYRC-R**:シルク・アール)

事務局：草加八潮医師会

〒340-0018 草加市中央1-5-22
TEL 048-928-8760
FAX 048-924-7180

代表世話人：高木 寛

(高木クリニック)

世話人：加藤 貴紀

(かとうファミリークリニック)

平田 大介

(平田クリニック)

新 謙一

(草加市立病院・東京医科歯科大学臨床准教授)

会報著作制作：新 謙一

(草加市立病院・東京医科歯科大学臨床准教授)

近々、ホームページも開設
します。ご期待ください。

草加市立病院呼吸器科 は紹介予約制

草加市立病院呼吸器専門外来は紹介予約制を原則としています。COPDや肺がんを始め、気管支喘息、肺炎など多彩な疾患を診療しています。外来前日にカルテを予習し、必要そうな資料を事前に準備して、複雑な管理を要し疾患が進行した患者さんや紹介患者さんへの質の高い診療を心がけています。その為お一人お一人にかなりの時間がかかります。ご地元の先生（クリニック・診療所など）に先に受診してご相談いただき、必要に応じて地域医療連携室を介してのご予約をお願いいたします（予約はご地元の先生がして下さいます）。受診される際は、紹介元の先生からの紹介

シルク・アール：質の高 い滑らかな地域連携に！

草加八潮地域連携呼吸器研究会（英名：Soka-Yashio Regional Conference of Respiratory Disease）は頭文字をとりSYRC-Rと表記し、「シルク・アール」と発音します。絹（シルク）の様に質の高い滑らかな連携がある（アール）ことを目指してのネーミングです。名前負けしないように継続発展させていきたいと考えています。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



外来前日にカルテを「予習」して診察しています

状・レントゲンなどのほかに、患者ご自身がお持ちのお薬手帳や過去の健康診断の結果などもご持参頂けると大変参考になる場合があります。症状によっては優先診療や隔離診療もしますので、紹介時に内科系外来までお電話でお問い合わせ下さい（TEL 048-946-2200代表）。

草加八潮地域連携呼吸器研究会（SYRC-R）

お互いの顔が見える地域連携に

ハイライト：

COPDを取り巻く現状はメタ

ボリックシンドロームの陰に隠

れて置き去りにされかねない。

われわれの医療をいかに安全に

効率的に患者さんに届けるかが

重要である。地域のパワーを結

集してこそ未来は開けてくる。

目次：

ごあいさつ	p1
COPD 地域連携パス	p1
パスの流れと低線量CT	p2
IPAG 問診票	p3
シルク・アールの意味	p4
クリニカルパス：病院用	折込
クリニカルパス：地域用	折込



高元俊彦

草加市立病院長・病院事業管理者
東京医科歯科大学臨床教授

草加市立病院の新築移転から丸3年が経とうとしています。この間、地域の医療関係、介護関係の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。お蔭様で当院は徐々に診療実績を伸ばしておりますが、折からの医療費削減の施策や臨床研修制度変革の影響で地域の医療情勢は年々厳しさを増しているのも実情です。一般社会に目を向ければ、団塊の世代がいよいよ高齢者になり、米国の後を追う様にCOPDや肺癌の罹患者が更に増加することが予想されています。草加市立病院が地域基幹の急性期病院として皆様の信

託に応えるためにも実のある地域連携が重要です。私の前任である長野県厚生連では、地域医療の先駆者である故若月俊一先生の精神を引き継ぎ全県をカバーするように病院が配置され、地区毎の健診や全国に先駆けて肺癌CT検診を行うなど地域医療を高いレベルで実現してきました。草加八潮地域連携呼吸器研究会(SYRC-R)が端緒となり医師会とも連携し地域全体に主な疾病をカバーする仕組みに発展していくことを期待しています。



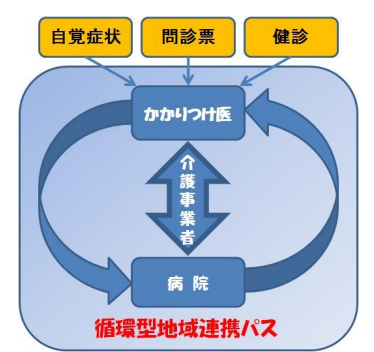
全国的にも珍しい**COPD**の地域連携クリニカルパス

COPDの一次スクリーニングには実地医家でも十分対応が可能な問診(IPAG：後述)と胸部レントゲンのみとし、二次スクリーニングは呼吸器専門施設で呼吸機能検査やCTなどを行います。専門的な評価と初期指導は当面草加市立病院で呼吸器科医師と外来専任呼吸療法認定士が行い、定期的管理が必要な症例(Ⅰ～Ⅲ期のCOPD)ではパルスオキシメーターを備えチオトロピウム(スピリーバTM)とフルチカゾン(フルタイドTM)やシクレ

ソニド(オルベスコTM)等の吸入ステロイドを処方できる実地医家へ逆紹介し、COPD地域連携パスに従って毎月の診察・処方と住民健診を行って頂きます。発熱、呼吸不全や心不全などが生じた際もパスに従った対応を緊密な地域連携下で行いますので、入院適応であれば紹介先に断られたりしなくなります。これらの流れは介護関係者でも十分に理解と実践ができ、かかりつけ主治医をサポートできる内容になってます。



本当にCOPDなのかどうかは病院が診断するし、COPDだったとしても定期的な病院評価プログラムが組まれている。



パルスオキシメーターは頼れるパートナーだ

呼吸器が専門でない先生にこそ地域連携パスを

よく「呼吸器は専門でないの」という言葉を耳にします。でも皆様の所には高血圧の患者さんや腰痛の患者さんは受診していませんか？例え高血圧や腰痛が専門でなくても、「血圧が気になる」「腰が痛くて歩くのがやっと」という患者さんに何もしないことは通常ありえません。COPDだってそうです。「痰がでる」「階段で息切れがする」と言われれば何かして差し

上げるでしょう。その時、患者さんの今後の人生を考えたら、頼ってみて患者さんも先生も安心の「地域連携パス」がお勧めです。本当にCOPDなのかどうかは病院が診断するし、COPDだったとしても定期的な病院評価プログラムが組まれているし、発熱・呼吸困難・心不全の3大増悪症状にも指針が示されているので、病気の進行が緩徐なCOPDはかかりつけ医としての総合的診療で管理するのに最適な疾患です。

肺癌の早期発見を期待して低線量CTでの管理も

一世を風靡した漫才コンビが相次いで50代半ばで肺がんで亡くなったり、最近も有名ニュースキャスターが肺がんになったり、気がつけば肺がんは胃がんを抜いて悪性腫瘍の死亡原因の第1位になっています。従来の胸部レントゲンでは死角になっていたり、小さすぎて判りにくかったりする病変もCTなら見つけやすくなります。しかし従来のCTは繰り返し撮影により相当な被爆を伴うため、例えヘビースモーカーで家族にがん患者がいても検診には向向きでした。最近、CT装置の急速な進歩により被爆を低減

した低線量CT撮影で無症状の人にも任意受診型検診が行われるようになってきました。現在、学問的に精密に有効性を検証している最中の方法ですが、SYRC-Rでは2回目以降の病院評価プログラムに任意選択の形で低線量CT撮影をご用意しました。草加市立病院は16列マルチスライスという性能が優れたCTを備え、低線量CT読影は日本CT検診学会会員で肺がんCT検診実務で実績のある医師が評価します。また画像情報は全て電子化され、過去の画像も瞬時に呼び出せますので比較読影には有利な環境です。

平成____年____月____日
←患者氏名(エンボスカード)
医療機関名
男・女

質問票		IPAG日本語版プライマリケア医用ガイド2005一部改変	
(40歳以上&喫煙経験者用)			
質問	選択肢(下記の該当する所に○か数字を記入して下さい)	ポイント	
1. あなたの年齢はいくつですか？	40～49歳 50～59歳 60～69歳 70歳以上	0 4 8 10	
2-1. 1日に平均何本くらいタバコ吸いますか？(もし、今は禁煙しているならば以前は何本位吸っていましたか？)	1日平均____本(A) ○か数字を記入→: 最近まで喫煙あり、____年前禁煙)	(該当する方に)	
2-2. 今まで合計何年間くらいタバコを吸っていましたか？	合計____年間(B)		
		(A) × (B) = 0～299	0
		(A) × (B) = 300～499	2
		(A) × (B) = 500～999	3
		(A) × (B) = 1000以上	7
3-1. あなたの身長は何センチメートルですか？	身長____c m	BMI=体重(kg)÷(身長(メートル)に換算)の2乗}。例えば身長160cmで体重65kgなら、BMI=65÷(1.6の2乗)=25.39<25.4でポイント5。身長160cmで体重76kgの肥満でもBMI=29.68で29.7以下なのでポイント1。	
3-2. あなたの体重は何キログラムですか？	体重____k g		
		BMI<25.4(やせ～軽度肥満)	5
		BMI25.4～29.7(中等度肥満)	1
		BMI>29.7(高度肥満)	0
4. 天候により、咳がひどくなることがありますか？	はい、天候によりひどくなることがあります いいえ、天候は関係ありません せきは出ません	0 3 0	
5. 風邪をひいていないのに痰がからむことがありますか？	はい いいえ	3 0	
6. 朝起きてすぐに痰がからむことがありますか？	はい いいえ	0 3	
7. 喘鳴(ゼイゼイ・ヒューヒュー)がよくありますか？	はい、よくあります 時々、もしくはよくあります 時々、もしくはよくあります	0 4 4	
8. 今現在(もしくは今まで)アレルギーの症状はありますか？	はい いいえ	0 3	
医療機関記入欄		ポイント合計____点(38点満点中)	
過去の禁煙治療歴(有・無)		自院で禁煙治療(有・無)	
		病院紹介(有・無)	

COPD管理は老人の慢性疾患管理に共通する

SYRC-Rでは患者さん一人一人に地域連携手帳をお渡しします。手帳に疾患管理に必要な事項を記入することで、医師、患者、家族、介護事業者などが情報を共有することができます。ここで必要とする観察・評価はCOPDのみならず老人の慢性疾患管理に共通する事項であり、日常診療に是非応用してみてください。「SYRC-Rの診療レベルでは物足りない」。そのような積極的な方には、埼玉包括的呼吸

リハビリ研究会をご案内します。全国から選りすぐりの有名講師陣がわざわざ埼玉まで来て、あなたの施設の積極的なスタッフを文字通り手取り足取り教えてくれます。草加市立病院の呼吸療法認定士第1号はこの研究会から育って、今は呼吸器外来専任で患者コーディネートを一手に引き受けています(看護師も兼務)。別途、開催情報をお知らせしていきます。大変人気のある会なのでDon't miss it! (見逃さないで！) です。



SYRC-R地域連携手帳は情報共有に威力発揮